

「H29九州農政局むらの宝」に選定

農事組合法人きらり農場高木 ^{たかぎ}生活部加工班

“キラリ”と輝く 大地の恵み



長期保存可能な「がね」(さつまいもを主に人参等を油で揚げた料理)



加工班メンバー



展示商談会へ参加

取組概要

- 平成18年より集落営農の加工班として農産加工を開始。郷土料理「がね」を手作りする家庭が減少する中、「おから入りがね」を商品化。
- 里芋・薬膳・トマトコロッケなどの惣菜類、「あわせ味噌」「完熟トマトみそ」「都城ゴボウみそ」などの商品を開発。
- 食材の殆どを集落営農の農産物を使用。販売はJA関連施設での店頭実演販売の他、展示商談会や催事、販路開拓関係行事に積極的に参加。

活動成果

- 食文化の伝承をしながら売上げは着実に増加(H28年は約1500万円)。また、商品開発、販路開拓に向けた加工食品や販売戦略の知識習得などが、班員のやる気を引き出し、法人そして地域全体の活性化へと波及。
- 地元農業高校の生徒を対象とした農産物の収穫体験、農産物加工の実習、保育園児を対象とした出前食育講座も実施。将来を担う子供たちや若手の育成に大きく貢献。

農事組合法人きらり農場高木 生活部
宮崎県都城市高木町6849-1

Tel : 0986-38-6246 Fax : 0986-38-2442

とくしげこうばいえん 有限会社 徳重紅梅園

無農薬生産、無添加加工品を消費者へ直販



特上の実をつける樹齢50余年の鶯宿梅



畑に散布する堆肥は、10a当り5t以上

草生栽培の草刈り(1年に6~8回)

取組概要

- 「先祖伝来の自然の摂理に沿った生産法と、知恵の加工法を正しく次世代へ伝承する」との企業理念。
- S37年より、在来品種「鶯宿梅」を野草や堆肥など有機肥料を用い、無農薬で栽培。梅園は大淀川源流に広がる傾斜地等で現在7ha。青梅は添加物等を一切使用しない梅干、梅肉エキス等に加工し、直売。
- 鹿児島県大根占町の梅生産者に有機栽培を指導、青梅を買取る等支援。

活動成果

- 「鶯宿梅」の無農薬生産を確立するとともに、他地域へ波及。「有機栽培実践農場」として、自社の畑を提供し、有機栽培の家庭菜園を実習・指導。
- 梅園の造成で大淀川源流の集落の過疎化対策と景観保全・自然保護に貢献。周辺にも植林が進展。
- 無添加の梅加工品は全国の顧客から高く評価。発送商品の緩衝材として、自家生産の有機野菜を同封し、有機栽培の良さを全国に発信。

有限会社 徳重紅梅園

宮崎県都城市平塚町9825番地

Tel :0986-22-6325 Fax :0986-22-2809

きた 北きりしま田舎物語推進協議会

はじめまして！の後は、もう家族。



インバウンド受入



台湾訪日旅行説明会

浴室と食品衛生の講習会

取組概要

- 農家民泊を推進するため、H18年に当協議会を設立。現在の会員80名。
- H25年に農家民泊による県外修学旅行の受入に着手。簡易宿所の営業許可取得、食品衛生講習等の受講を必須とするなど安全管理を徹底。
- 修学旅行受入時期以外の期間を活用したインバウンド受入に向け、シンポジウム参加等による知識習得、香港や台湾での観光説明会への参加によるPR活動を実施。

活動成果

- 地域のありのままの暮らしを生かした農家民泊で年々修学旅行の受入が増加。H29年の受入数は約2100人うち約1800人が修学旅行。インバウンドの受入も、H29年は香港の小中学生の教育旅行60人を受入予定。
- これまで地域に無かった滞在型の修学旅行受入により、農家の所得向上はもとより、ふれあいを通じた心の精神的効果も得られた。協議会の会長及び副会長は女性であり、女性が中心となって活動。

北きりしま田舎物語推進協議会(八幡原市民総合センター内)

宮崎県小林市堤108-1

Tel : 0984-22-3020

Fax : 0984-22-3020

ざいこうじ 財光寺農業小学校

さあ、広げよう 農業小学校



取組概要

- 地域の農業経験者や退職者が中心となり、体験・実践型の食育を企画し、地域の子どもたちに自ら土に触れ汗を流し収穫の喜びを実感させるため、H21年に開校。
- 農業への感謝の気持ちを養うため、入校条件は、①収穫野菜をご先祖に供えること、②苦手な野菜を育てること、と設定。また、シニア世代も対象にし、交流の場として盛況。
- 小学校のバザーや駅前市などで、子どもたちは、配る・売る喜びを体感。

活動成果

- 小学生のほか、シニア世代も対象としたことから、世代間の交流の場や高齢者の生き甲斐の場となっている。地域振興のモデルとして視察も多く、他地区へ波及。市内外で3校が開校。
- 季節ごとに多品種の栽培を指導し、苦手意識を解消させると共に、農家の苦労と食物の尊さを体感させている。
- 東日本大震災、熊本地震の被災地に、収穫したタマネギとともに励ましのメッセージを送るなど復興にも貢献。

財光寺農業小学校(日向市役所農業畜産課)

宮崎県日向市本町10番5号

Tel :0982-52-2111

Fax :0982-52-0250

きりしま 霧島会

国内需給率0.1%の国産ごま生産への挑戦



霧島会メンバー



定期的に勉強会を行う

地元高校調理科による
ごまを使用した丼を開発

取組概要

- 定年退職者が「ごま」の産地復活に向け、H20年に有志12名で栽培開始。
- 当地にあった栽培方法を試験研究。新規生産者向け栽培マニュアルの作成や研修会を開催。品質向上や作業軽減化等に取り組んだ。生産者の拡大に向け、テレビや新聞等で情報発信。
- 会員農家が加工施設を整備し、加工品開発に着手。商工会等で構成するプロジェクト委員会を組織。東京での商談会や県外での物産展に出展。

活動成果

- 発足当初12名だった会員も、44名に増加し、栽培面積も着実に拡大し、H29年は10ha。
- 国内需給率0.1%の国産ごまの取り組みは多くのマスコミが取り上げ、高齢化や鳥獣被害にも効果的で市場性も高いことを紹介した結果、本町以外にも都城市や宮崎市、大分県佐伯市等でも生産者が拡大。
- 県外の小売店や飲食店、加工業者の利用も増加。

霧島会

宮崎県北諸県郡三股町大字蓼池354-2

Tel : 090-2629-4772

しきさい 四季彩のむら

昭和30年代の風景が残る、彩りあふれる里山



取組概要

- H13年、町の「四季彩のむら整備事業」を活用し、地権者12名で「四季彩のむら」を設立、昭和30年代の農村風景を残すことをコンセプトにむらづくり。
- 石積みの棚田で春はレンゲや菜の花、夏は水稻、秋は稲穂の掛け干しやソバなど昔ながらの四季の景観を再現。地域住民や来訪者に環境学習と安らぎの場を提供。
- 「田植え・稲刈り体験」、「彩りリレーマソン」、「田んぼアート」などのイベントも開催。

活動成果

- イベントの開催により来訪者を呼び込むことで、地域内の温泉施設の利用者の増加や、「高鍋湿原」の見学者の増加など、相乗効果が見られる。
- 近隣の加工体験施設「たかなべ食彩工房」においても、コメの精米・製粉、ソバの製粉及び料理教室等の開催で、集客に効果を上げている。
- 今後も四季彩のむらを基点に、老若男女問わず楽しめるイベントを開催し、周辺地域の活性化につなげる。

四季彩のむら

宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437番地

Tel :0983-26-2021

Fax :0983-23-6303

そめがおか

染ヶ岡地区環境保全協議会

きゃべつ畑のひまわり祭り



染ヶ岡台地のキャベツ畑 九州有数の産地



ひまわり畑の花見台



ひまわり畑を歩く来場者

取組概要

- きゃべつ・白菜の産地。H22年発生
の口蹄疫により、元肥として施肥して
いた堆肥の持ち出しができなくなった
ことから、緑肥としてひまわりを活用。
- ひまわり植栽は年々拡大。活動5年
目のH26年以降、80haの植栽を継続。
- 広大なひまわり畑を活かし、人を呼
び込むため、ひまわり迷路や花見台
を設置するとともに、見頃を迎える8
月中旬の土日に「きゃべつ畑のひま
わり祭り」を毎年開催。

活動成果

- ひまわり植栽は景観だけではなく、後作
のリン酸吸収の促進効果があるとも
に、キャベツの連作障害の回避にも
なっている。
- 新聞、TVでも取上げられ、インターネッ
トでも情報を発信。ひまわり祭りには全
国から1万6000人(H29年)が訪れるよう
になり、町、商工会、観光協会等各種団
体も参画する町を挙げたイベントに定
着。種まきイベントやポスターのデザイン等で
女性農業者が活躍。口蹄疫からの復
興・再生の象徴的存在となっている。

染ヶ岡地区環境保全協議会(高鍋町産業振興課)

宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437番地

Tel :0983-26-2021

Fax :0983-23-6303

おがわさくごやむら
小川作小屋村運営協議会

平成の桃源郷 小さな村の大きな挑戦！



おがわ作小屋村店舗



メインメニュー（おがわ四季御膳）



カリコボーズの山菜まつり

取組概要

- H17年時点で高齢化率70%以上の地区。レストラン「おがわ作小屋村」にて、地元の食材で地元のおばちゃん達が食事を提供。メイン料理「おがわ四季御膳」は、多いときは1日100食以上提供。月ごとに料理内容が変わるため毎月食事に来る人も多い。
- 作小屋村の前の山林を花見山に整備中。これまで桜を中心に約8,000本の花木を植栽。また、アクセス道路の県道沿線に、「桃源郷」の入口らしくハナモモを植栽。

活動成果

- 地域イベントとして毎年5月の「カリコボーズの山菜まつり」、中秋の名月の頃の「月の神楽」を企画・運営。また、大型バスツアーも受入れ、年間の店舗来店者数は約1万8000人。
- 事業開始からUターン・Iターンが20名移住。うち3名が店舗運営に従事。若い力が入ってきたことで地区に活気が戻ってきた。主役のおばちゃん達は平均年齢73歳。メニュー検討や食材集めに毎日頑張っている。

小川作小屋村運営協議会

宮崎県児湯郡西米良村大字小川254

Tel :0983-37-1240 Fax : 同左

だとめ 駄留集落

一人はみんなのため、みんなは一人のため、出来る事から始めよう。



電気防護柵の設置



緩衝帯の整備風景

獣を食べよう会

取組概要

- H23年から集落ぐるみで鳥獣被害対策を実施。潜み場所や獣道、餌となる木の実や放任果樹など住民全体で点検。マップ化し、住民の認識を高め、対策の検討材料として活用。
- 高齢者がロケット花火を使い獣の追い払い活動を実施。それを労う趣旨で、H23年より「獣を食べよう会」を開催。集落の大イベントとして定着。
- 緩衝帯の整備と合わせて遊歩道の設置や山桜・椿・山茶花等を植樹。

活動成果

- 獣被害がほぼ無くなり、安定した農作物の収量を確保。水稻の作付けも増加し、「だとめ米」の特産化に向けた取組みに結びついた。植栽した椿を使った椿油の試作など、集落内の女性が中心となって特産化に着手。
- 地域の連帯感が生まれ、「獣を食べよう会」、地域住民の交流の場としての山桜・椿・山茶花等の植樹、視察受入等にも積極的に取り組み、地域内外の人的交流が促進。

駄留集落

宮崎県児湯郡木城町大字高城2830-2

チームがはは

《できたよ～！浜うどん》



東児湯鍋合戦2011に参戦 優勝



学校給食 浜うどんサラダ



特定健診の受診者への振る舞い

取組概要

- H22年の口蹄疫からの復興を目指し、地元JA・漁協・商工会等の異業種の女性グループ(10名)が「東児湯鍋合戦2010」に鍋メニューを作り、参戦したのが活動の始まり。
- H23年の鍋合戦に、魚を練り込んだ麺に改良し再挑戦し、優勝。郷土食の麺とするため、地魚シイラを使って改良を加え、H24年に現在の「浜うどん」が誕生。長期保存麺を開発。地域の飲食店及び直売所で販売。現在、年間1万食以上を製造・販売。

活動成果

- 優勝を機に「浜うどん」を地元メディアにPRすることで、県民にアピールできた。川南名物「シイラ」の使用で地産地消に繋がった。また、乳性カルシウムを加えて栄養価の高い麺に仕上げ、学校給食、介護食、離乳食にも活用。「浜うどん」を使用した小・中学校での調理実習をとおり「口蹄疫」を伝承。
- 東北震災被災地でのふるまい、高原町からの小麦粉の購入で新燃岳噴火の復興支援にも貢献。特定健診でのふるまい等にも取り組んでいる。

チームがはは

宮崎県児湯郡川南町大字川南13680番地1 Tel :0983-27-8014 Fax :0983-27-5879

合同会社 あまてらすの娘たち

高千穂の、食を伝えよう！食で繋がろう！



干し鰯の煮つけの缶詰

昔ながらの仏事の食事を体験

日替わり膳

米粉ピザ

食のコミュニティでの一場面

取組概要

- H28年設立。廃校利用のレストランや山奥のカフェの運営、町産食材使用の加工品製造・販売を実施。
- レストランでは、山菜・野草を中心に、直売所の野菜を使った料理を提供。棚田や雲海の景観が楽しめるカフェでは、米粉を使ったスイーツを提供。
- 加工部門では、近年、家庭で作られなくなってきた郷土料理の干し鰯の煮つけ「ぼんだら」の缶詰の他、地元農産物で加工品を製造・販売。

活動成果

- 加工に用いる農産物は、高齢化でA品生産が難しくなったことを受け、A品以外で開発・製造、また生産者宅に出向いた集荷などで高齢者に貢献。
- 食のイベントも開催。若者から高齢者、観光客も参加。世代間、農家・非農家、町民と観光客の交流を後押し。
- 世界農業遺産関連のイベント等に協力し、食文化の情報発信に貢献。中学生の職場体験でも利用され、ふるさと教育の一端も担っている。

合同会社あまてらすの娘たち

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字向山1232

Tel :0982-83-0808

Fax : 0982-83-0809

「H28九州農政局むらの宝」に選定

特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校

日本一の清流五ヶ瀬川上流で行う持続可能な村づくり



子ども探検キャンプで滝遊び

地震で液状化した田んぼの稲刈り
(南阿蘇)五ヶ瀬自然農園ネットショップ
特産品をネット販売
～九州の名産品を五ヶ瀬で販売～

取組概要

- 町内の若手中心の組織。自然、資源、人を最大限に生かした地域づくりを行うため、農林業、エコツーリズム等を組み合わせた事業を展開。
- 地元小学校の児童全員に放課後毎日、農作業、昔遊び、自然体験など生きる力の教育を地域住民が行う「放課後子ども教室」を実施。
- 農業法人を設立。地元産米を「四億年の大地」という名で、また世界農業遺産認定を受け、左近太郎精米を復活させ、その米を「負け知らず」という名で直売。

活動成果

- 「放課後子ども教室」は13年目、毎年30名程度を維持。五ヶ瀬川流域の子ども達を対象に、季節に応じたキャンプも年34回開催。680人程度が参加。
- 「四億年の大地米」は9t程度の販売量で安定。法人の農業経営に従事する移住者に子供が生まれるなど活性化に貢献。耕作の依頼も増加。
- 全国組織と協働で熊本地震の被災地支援も実施。50tの支援物資を配送し、延1752人のボランティアを派遣。

特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校

宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字鞍岡6452乙

Tel :0982-73-6366

Fax : 同左